第５学年　みらい科学習指導案

令和２年９月 11 日（金）５・６校時
５年１組・２組・６年１組教室
第５学年　ベーシック 16 名
チャレンジ 16 名×２クラス
講師　グラグリッド株式会社　スタッフの皆様

研究主題　楽しみに思える未来を創造する児童の育成
～「みらい科」「教科学習」を通して～

１　単元名　「ノート学」（全４時間）

２　単元の目標

○グラフィックレコーディングを活用したノートの取り方を用い、情報を収集、編集し、新たな知をつくる自律的な学習プロセスの形成方法を習得する。
○グラフィックレコーディングを活用したノートの取り方を用い、得た情報を俯瞰して捉えることで「思考力」と「判断力」の向上につなげる。

３　単元の観点別評価規準

ア　知識・技能	イ　思考力・判断力・表現力	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　ノートの在り方やノートの取り方の技法を知り、活用するみることができる。 ②　情報を収集、編集し、新たな知をつくる自律的な学習プロセスの形成方法を習得する。	①自分や活動内容にあったノートの取り方を選択する。 ②　ノートを振り返り、収集した情報を俯瞰することで、新たな気付きを得る。	①学んだことを日ごろの学習活動に取り入れ、実践しようとする。 ②ゲストティーチャーや友達のノートを見ることを通して、よりよいノートの取り方を見付けようとする。

４　単元について

（１）教材観

議論や対話、講演等の情報を絵や図のグラフィックで可視化する技法が「グラフィックレコーディング（以下ＧＲと記載）」である。グラフィックで可視化することで話の全体像がひと目でつかめるようになることを目標としている。また、話合いにおいて論点が見えなくなって行き詰まってしまった時などに、グラフィックで記録すると、どんな流れで、どんな意見が出て、いま何が課題になのかということが構造化されるので、話合いに参加している人は何を解決すればいいのか、ゴールはどこなのかを見て共有することができる点で優れていると考える。

学習においても、新しい知識（情報）の収集、構造化の過程においてＧＲの手法を用いることは効果的であると考える。加えて、ＧＲの技能の獲得という面においても、学習の中で、情報の「構造」や「関係性」を理解しながら書く経験を積むことは議論や対話でＧＲを活用するための第一歩となる。

今回の「ノート学」では「ノート」を「情報を捉え、書きとめ、考える行為。また、それを書く（描く）モノ。」と捉えている。つまり、「ノートをとる」目的は、「教員の話を機械的に書きとること」ではなく、「積極的に思考すること。また、そのためのツール。」である。そのため、きれいに書くことよりも、

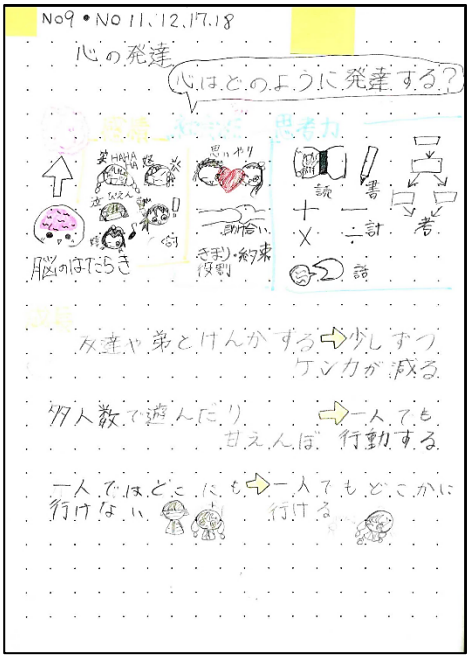
自分や学習内容にあった様々なノート術を試してみること、さらに、ノートを振り返り、収集した情報を俯瞰することで新たな気付きを得たり、自分にとってわかりやすいものであったりすることに重きを置いている。

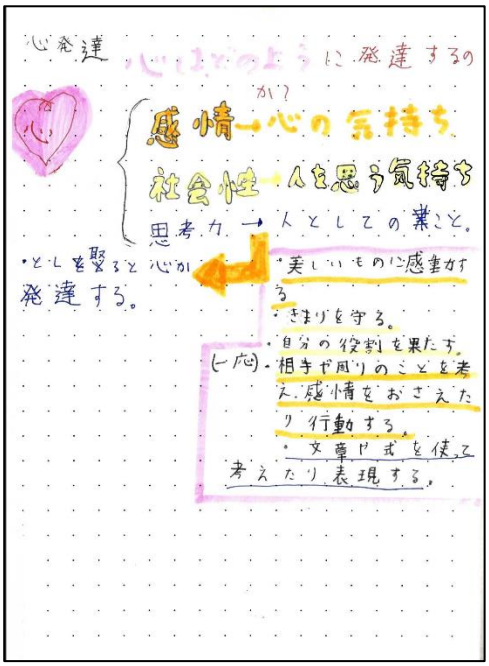
（２）児童観

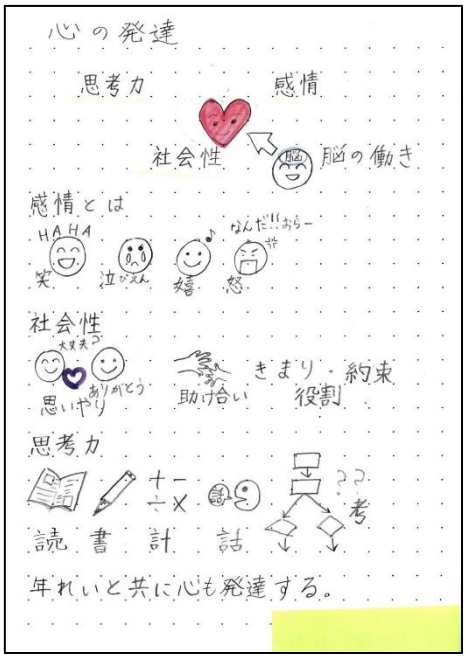
女子の人数が多く、絵を描くことが好きな児童が多い学年である。休み時間には、男女入り混ざってホワイトボードに絵を描き、教室の壁にはいろいろな子が書いたイラストが貼られている。

３年生の時に「おえかきシンキング～楽しむ～」、４年生の時に「おえかきシンキング～解釈して表現する～」に取り組んでいる。また、放課後部活において「グラレコ部」に所属していたり、日本最大級のデザインカンファレンスに参加していたりとＧＲに触れる機会が多い児童もいる。学習活動の中においても、２年間のＧＲ経験があるため、その技能を活用しながらノートをとっている姿が見られる。その証として、同じ授業を受けていても、児童によって書かれているノートは異なっている。

しかしながら、そもそも文字やイラストを書くことが不得手な児童もおり、その差は大きい。また、見栄えをよくすることに重きを置いている姿も見られ、ノートを「積極的に思考すること。また、そのためのツール。」として捉えられている児童は少ない。そのため、この単元のみならず、日常の学習活動の中で、さまざまなノートの取り方の技法を試していく機会を創出していきたいと考えている。また、そのノートを振り返り、収集した情報を俯瞰して、新たな気付きを得る経験を積むことで、ノートとは「積極的に思考すること。また、そのためのツール。」であることを体感させるとともに、その有用性に気付かせたい。







（３）研究との関わり

目指す児童像　「自ら考え、判断し、行動できる児童」

①児童の希望や実態に沿ったレベル別の活動内容の設定

「（２）児童観」でも述べた通り、今までの経験の差や得手・不得手などがある。そのため、全員同じノート術に取り組むのではなく、「ベーシック」「チャレンジ」の２段階のレベルのノート術を用意した。各レベルで伝授するノート術の概要をあらかじめ児童に伝え、希望に沿ったクラス分けを行った。自分のレベルにあったノート術を知ることで、その後の学習活動の中で活用しやすくなるだろう。

なお、今回の学習では、48 名中「ベーシック」が 16 名、「チャレンジ」が 16 名×２クラスである。「ベーシック」では、「ノートにつかう、かんたんスタンプ」「カラーマーキング」など取り組みやすく、ノートを振り返った時に情報の分類がわかりやすいノート術を扱う。また、「チャレンジ」では、「図解ノート」や「折りメモ」など、ノートを振り返った時に情報の関連性がわかりやすいノート術を扱う。

②考え・判断するための手法としてのＧＲの活用

「（１）教材観」でも述べた通り、「ノート学」では「ノートをとる」目的を、「教員の話を機械的に書きとること」ではなく、「積極的に思考すること。」と考えている。そのため、ノート術を学ぶだけでは、その目的は果たされず、日々の学習活動の中でノート術を使うことができる機会を創出したり、教師がノート術を使うことをもちかけてみたりすることが重要である。また、そのノートを振り返ることで知識と知識を関連に気付いたり、新しい価値や意味を見出したりする経験を積ませ、有用性に気付かせたい。

③個性を発揮する場、肯定的・共感的に友達と関わる場としての「ノートグランプリ」の開催

本校の研究では学校生活の基盤として「肯定的・共感的な人間関係」を重視している。コロナ禍において日々の学校生活でも人と人の直接的な交流が難しい状況にある。しかしながら、学習形態を工夫することで、直接的な交流はできなくとも、これまでに培われてきている「友達の良さを見付けることができる力」や「共感力」を大切にしていく。「ノート学」においても、友達のノートを見て、良いところを見付け、自分に取り入れてみる活動を行うことで、友達の新たな一面に気付くとともに、自分自身の成長にもつながると考える。

５　指導計画（全４時間扱い）

	ねらい	○主な学習活動・児童の反応	＊資料◇評価（観点）
１・２	新たな知をつくる自律的な学習プロセスの自主的形成方法を習得するために、ノート術を用いて、情報を収集し、編集する。	○既成概念からの解放 ・経線のノートでいろいろな書き 方をして遊ぶ ○ノートをつくる ・模造紙を使って机ノートを作る ○ノート様式の紹介 ○振り返り	◇ノートの在り方や 取り方の技法を知り、試してみることができたか。（知識・技能）
日頃の学習活動	思考を深め、新たな気付きを得るために、前時に学習したノートの概念やノート術を生かしてノートをとる。		①自分や活動内容にあったノートの取り方を選択することができたか。 （思考力・判断力・ 表現力） ②ノートを振り返り、収集した情報を俯瞰することで、新たな気付きを得ることができたか。 （思考力・判断力・ 表現力）
３・４	１・２時間目に紹介されたノート様式を活用してとったノートを見せ合い、友達のノートの良いところを見付け活用する。	○ノートグランプリ ・一人１ノート展示する ・ノートを見ながら、良いと思ったところにコメントをつける。 ・良いと思ったところをまとめて発表する ○チャレンジグラレコ ・友達の技や今までに紹介されたノート様式を生かして、教師の話をもとに１枚のノートをつくる。	① 学んだことを日ごろの学習活動に取り入れ、実践しようとしていたか。 （主体的に学習に取り組む態度） ③ ゲストティーチャーや友達のノートを通して、よりよいノートの取り方を見付けようとしていたか。 （主体的に学習に取り組む態度）

チャレンジコース

６　本時の学習指導（全４時間中の第１・２時）

（１）目　標

・情報を収集、編集するためのノート術を知り、挑戦する。

（２）展　開

	○主な学習活動　・予想される児童の反応	・指導　支援　＊資料　◇評価（観点・方法）
導入	○挨拶 ○既成概念からの解放 ・線や色を使って遊ぶ ○ノートグランプリの説明 ・第二回目に行う「ノートグランプリ」の趣旨を聞く	・１月に行う「ノートグランプリ」ではノートを公開し、友達のいいところを見付け、自分にも取り入れることで５年生の集合知として捉える。また、個性の発見をねらうことを伝える。
展開	「ノートのいろいろためしてみよう」 ○ノートをつくる ・模造紙を使って、机ノートをつくる	・現存する紙を冊子状に束ねたもの以外の者もノートをして扱うこと伝える。
	○４つの描き方に挑戦 （１）折りメモ ・ノートを折って、自分の意見を書く場所を最初につくる方法 （２）図解ノート ・○□➡で関係性を捉える方法 （３）ひっぱり出し解説型 ・中心にじっくり考えるものを置いて、そのまわりに解説を書く方法 （４）メインファシリテーターのイチオシ メインファシリテーターのいちおしノート術を聞く	・ノートの TIPs をあつめるのではなく、ノートのあり方そのものから考えることを伝える。 ・表現の方法を探索する姿を内発的動機ととらえ、認めていく。
まとめ	○振り返り ・A４の紙をつかって今日の活動をふりかえる	◇「ノート学」におけるノートの考え方や取り方の技法を知り、試してみることができたか。 （知識・技能 学習の様子・振り返りワークシート）

ベーシックコース

６　本時の学習指導（全４時間中の第１・２時）

（１）目　標

・情報を収集、編集するためのノート術を知り、挑戦する。

（２）展　開

	○主な学習活動　・予想される児童の反応	・指導　支援　＊資料　◇評価（観点・方法）
導入	○挨拶 ○既成概念からの解放 ・線や色を使って遊ぶ ○ノートグランプリの説明 ・第二回目に行う「ノートグランプリ」の趣旨を聞く	・ノートを公開し､友達のいいところを見付け、自分にも取り入れることで５年生の集合知として捉える。また、個性の発見をねらう。
展開	「ノートのいろいろためしてみよう」 ○ノートをつくる ・模造紙を使って、机ノートをつくる	・現存する紙を冊子状に束ねたもの以外の者もノートをして扱うこと伝える。 ・ノートの TIPs をあつめるのではなく、ノートのあり方そのものから考えることを伝える。
	○４つの描き方に挑戦 （１）ノートにつかう、かんたんスタンプ ・「大事！」「あとで調べる！」にマークをつける方法。 （２）チャット式ノート ・書き足したいことをふきだしなどを使って書き足す方法。 （３）カラーマーキング ・大事なところ､わからないところに色をつける方法 （４）メインファシリテーターのイチオシ メインファシリテーターのいちおしノート術を聞く	・表現の方法を探索する姿を内発的動機ととらえ、認めていく。
まとめ	○振り返り ・A４の紙をつかって今日の活動をふりかえる	◇「ノート学」におけるノートの考え方や取り方の技法を知り、試してみることができたか。 （知識・技能 学習の様子・振り返りワークシート）